

湖底環境改善によるアサリ漁場機能回復研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成21年～23年度)

担当：浜名湖分場 今中園実

【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖のアサリ漁獲量は、海水流入増大に伴う生息場所の縮小と食害の増加から、豊漁期の約1/3の3～4千トンで推移しています。漁獲量回復のためには、アサリを安定生産できる“場”を増やすことが必要不可欠です。
- ・しかし、生産性が低下した漁場では操業が行われないことで、食害生物の濃密分布や地盤の硬化などが起こり、アサリの増殖に不適な環境となってしまうています。
- ・一方、これまでの研究により、ツメタガイは礫底を嫌い摂餌量が低下すること、湖底面の流れを抑制することで稚貝が集積しやすくなることが明らかになりました。
- ・そこで、食害防除やアサリ稚貝の集積を目的とした湖底環境改善によるアサリ漁場機能回復技術を開発します。具体的には、主に禁漁区をモデル地区として、碎石散布や耕耘等の効果を検証します。



【これまでに得られた成果】

(平成21年度の成果)

- ・室内実験でツメタガイの底質選択性を検討した結果、粒径20mm以上の碎石を厚さ7cm以上敷いた底質には、通常の砂地よりツメタガイが分布しにくいことが分かりました。
 - ・浜名湖内に碎石を散布したときの状況を調査し、方法の有効性を検討するため、浜名湖南部のアサリB禁漁区に、予備的な試験区を設置しました。
- 室内実験をもとに、粒径20mm以上の碎石を厚さ7cmに散布(1×1m)した結果、設置1週間後の碎石の残存率は90%以上で、一定期間内では散逸はごくわずかであると思われました。



【期待される成果】

- ・碎石散布により、漁業者自らが浜名湖内で実践できるアサリ漁場改善の手法を開発できることが期待できます。

【今後の計画】

- ・規模を拡大した新たな試験区を設置し、定期的な現地調査により、アサリ着定やツメタガイ防除効果を検討していきます。
- ・碎石に替わりカキ殻等の資材の有用性を検討し、コストダウンのため手法を改善します。

(作成 平成22年4月)